

ほうじょう さと 豊饒の郷より



写真/平成16年11月3日「産業フェア」出店者のみなさん

山があつて良かった。海があつて良かった。そして、心にふれる人情とあふれる恵みに包まれた私たちの町・志津川。人も自然も、それぞれのリズムを刻み、繰り返す営みの中で、日々さまざまな表情を生み出し、町を豊かに彩ります。こんなこと、できたらいいね。そんなふうになったら、すてきだね。町に住まう人たちの、そんな熱い思いや元気な姿は、志津川の「今」をあざやかに映し出しています。また、強く豊かで限りない可能性に満ちた町の力を予感させます。

志津川へのメッセージ①
はしたて
外立とし江さん
〈画家〉志津川町戸倉荒町出身

絵と出逢って、自分は「人生に愛されている」と実感。そう思える自分を生んでくれた両親に感謝している。

「家を新築した際、飾る絵がなかったから、自分で描いてみた」
学校時代もコンクールなどで人賞はしていたものの、本格的に絵筆を握ったのは、そのときが初めて。今年で九年、才能の開花は驚くほどの早さ。

「最初の一年は、無我夢中で毎日描きました。先生には、カルチャークラスの十年分を一年で描いたね、と言われました。それまで『美』に関わることをしていましたが、扉を開いて、開いて、開いていったら、そこに絵があつた感じです。ずっと追求してきた美の究極の表現形態が絵画だったんだね、とも言われました」



町に寄贈され、現在、町長室に飾られている「波一鼓動」は100号の大作



「波」はベイサイドアリーナを飾っている

「…私の母が描いたなんて…涙が出そうだった母は、もはや「母」ではない。ただそれだけの存在ではなく、私を包み、刺激し、生きる喜びも、苦しみも、一枚の絵に表現する。…」

(娘の美穂さんが綴った詩の一節より)



Toshie HASHIDATE…千葉県市川市在住。フラワーアレンジメントやエステティック・サロン経営などの後、1997年に中国人画家・江屹氏に師事し、絵筆を握る。その半年後には全展3点入選、千葉県展初出品入選を皮切りに、精力的に創作し大作を展覧会に多数出品、入賞・入選多数。個展も開催し、高い評価を得ている。今年の夏7/27～8/2新宿伊勢丹にて個展。秋には、日露戦争100周年行事の一環として、横須賀の“記念艦みかさ”船内で個展を開催する。

テーマは一貫して「波」。波涛や飛沫の一片一片に、限らない奥深さと強さを感じられる作風で、数多くの大作を生み出している。「感動やときめき、自分の想いを一枚の絵に込める作業は、私にとって、このうえなく新鮮で心落ち着ける楽しいひととき。全国各地の海に取材に出かけ、その先々で、いつも違う魅力や刺激をもらえるのです」
「志津川は、自分にとっては何年経っても変わらない。いつでも帰りたいし、今でも住みたい場所。こちらの皆さんを志津川に連れていきたいですね。父は『自分を喜ばせてくれてありがとう』なんて言ってくれるのですが、本当にうれいし、幸せですね」
「たくさんの出会いがあって、ここまで来ることができた。これからも自分の気持ちに素直に、今を前向きに生きていきたい。『波』といったら外立、外立といったら波、そうなりたいたいと心から思っています」
”今”を極めたいですね



毎日見ていた志津川の海。波に心を映す私の原点であり、オアシスです。